2023 年 11 月　日

江津市議会議長　藤間　義明　様

議員名　　植　田　好　雄

研修実施報告書

政務活動費による研修を下記により行ったので報告します。

記

１・日程：2023 年 10 月 25 日～26 日

２・概要

日　時：1 日目　10 月 25 日(水)　13 時～16 時 30 分
　　2 日目　10 月 26 日(木)　9 時～11 時

場　所：福岡県北九州市小倉北区浅野三丁目８－1
　　《会　場》西日本総合展示場　新館

視察・研修概要：第 18 回全国市議会議長会研修フォーラム in 北九州

［1 日目］基調講演

「躍動的でワクワクする市議会に」

片山善博　大正大学准教授兼地域構想研究所所長

パネルディスカッション

「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」

コーディネーター　谷　　隆徳　日本経済新聞編集委員
　　勢一　知子　西南学院大学法学部教授
　　辻　　陽　近畿大学法学部教授
　　濱田　真理　Stand by Women 代表
　　女性議員のハラスメント相談センター共同代表
　　鷹木研一郎　北九州市議会議長

［2 日目］課題討議

「議員のなり手不足問題への取組報告」

コーディネーター	江藤　俊昭	大正大学社会共生学部公共政策学教授
事例報告	辻　　弘之	登別市議会議長
	たぞえ麻友	一般社団法人 WOMAN SHIFT 理事 目黒区議会議員
	永野慶一郎	枕崎市議会議長

３・個人報告書：別紙のとおり

別　紙

研修実施個人報告書

議員名　植田　好雄

［1 日目］

■基調講演

「躍動的でワクワクする市議会に」片山善博　大正大学准教授兼地域構想研究所所長

１．地方議会をめぐる現状とこれまでの地方議会改革を検証する

二元代表制のもとでは、議決権のある議会が主役である。首長には、予算など議案を提案し執行する権利はあるが、議会が議決しないと執行できない。

議会条例作ったが、議会が変わったのか、住民が議会に関心を持つようになったのか、体質を変えるまでしないと議会改革にならない。

２．日本の地方議会に欠けている事は何か

当初予算は出来レース的になっていないか。出されたもの、本当に今必要なのか、その予算で良いのかなど議論し変える言う事ないと、ハラハラ、ワクワク無いと市民は市政への期待感も関心も薄れる。(鳥取県知事時代の、県議との議論の中で予算を修正した事の事例を紹介された)　予算は共同作業である。議論する事は対立状態という事ではない。

市議会に欠けているものは、「①議場での真剣な議論が欠けている。②税の議論（住民税や固定資産税）が無い。事業の財源として、税を上げようとか下げようとかの議論があってもいい。固定資産税１．４％や住民税６％も税率としている根拠はない。財源確保に税率を検討しないのは「思考停止」している。税率を上げることは市民の反発はあるのは必至だ。③住民の声が聞こえない」と議会として追認機関にならない議会での議論と住民の声を反映した議会になる事が求められていると述べられた。

３．現行の議会の権限を活用してもっと積極的に取り組むべきこと

丁寧な議論をする。そのためには裏を取る。議案を鵜呑みにしない。上手く説明して本質をぼかすこともある。

４．議会の常識と市民の常識をすり合わせるー市民が首をかしげることとは

教育委員会に目配せを。義務教育現場は疲弊している。不登校児童 30 万人となっており、先生は忙しすぎる。企業ならこうした事を改善しないと企業は持たない。こうした事を認識して改善をするのが教育委員であり、教育委員会だ。しかし、教育委員は市長が任命して任命された者の対面も所信を聞くこともなく承認されている。教育委員は名誉職ではない。本当に資質、やる気、時間はあるのかなど直接対面チェックすることが必要だ。と指摘された。今までいろんな委員の任命で、顔も知らないどんな資質の人かもわからずに追認してきたことを本当に反省させられた。

５．今振り返って議会に感謝している

鳥取県知事時代に、男女共同参画の先進地自治体となった事の事例を紹介され、議会に感謝していることを述べられ終わられた。
反省させられ、今後の議会活動に活かす貴重な講演であった。

引き続き行われた「パネルディスカッション」

「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」と題して、コーディネーター　谷　隆徳日本経済新聞編集委員、勢一　知子西南学院大学法学部教授、辻　陽近畿大学法学部教授、濱田　真理　Stand by Women 代表　女性議員のハラスメント相談センター共同代表、鷹木研一郎　北九州市議会議長によるパネルディスカッションが行われた。

それぞれの立場から、統一地方選挙と地方議会の課題について報告された。
〇谷氏から、投票率の低下や無投票当選が多くなっている状況。道府県議会や市町村議会で女性議員が増えている特徴があると言われた。
〇勢一氏からは、①人口減少社会の本格的到来が地域にもたらすもの　②住民自治の危機？③地域社会の「鏡」としての地方議会とは？　④第 33 次地方制度調査会「多様な人材が参画し住民に開かれた地方議会の実現に向けた対応策に向けた答申」(2022 年 12 月 28 日）⑤地方自治法改正の意義について述べられた。
〇辻氏からは、多様な地方議会という事で①「日本の地方議会」での主張…人口規模に応じて多様な執政制度の選択を可能に　②同じ市と言えども、人口 370 万人に市から 1 万人を切る島で多様。それに合わせて議員報酬の額も多様。議員報酬 20 万円切る自治体も　③人口規模が大きい自治体では、議員報酬だけで生活できる、つまり「専業化」できるが、そうでない自治体では「兼業化」しないと生活できないといった問題意識からの意見であった。
〇濱田氏からは、地方議員に対するハラスメントの現状として、立候補検討中や準備中、

は男 58%、女性 65.5%、選挙活動や選挙中は男性 32.5%、女性 57.6%のハラスメント受けた。相談体制の議会内ルール作りが重要と述べられた。
〇鷹木氏から、カフェトーク in 北九州～議員とまちを語ろう～の取り組み事例などが紹介された。

［2 日目］パネルディスカッション
課題討議「議員のなり手不足問題への取組報告」と題して、
コーディネーター　江藤　俊昭　大正大学社会共生学部公共政策学教授、
事例報告、辻　弘之　登別市議会議長、たぞえ麻友　一般社団法人 WOMAN SHIFT 理事・目黒区議会議員、永野慶一郎　枕崎市議会議長により進められました。
〇江藤氏からは、統一地方選挙から見る地方政治の現状。当補油率の低下と無投票当選の深刻化や立候補者が定数を下回る「定数割れ」が増えたことが特徴。議員のなり手不足が住民自治の劣化招く。なり手不足は、単に無投票と言うレベルとどまらず、多様化の欠如(年齢構成、性別、職業など)、投票率の低下、といった地域民主主義の問題。政治を身近に感じないことで「民主主義の学校」である自治体の政治の衰退は、国政を侵食する事になる。国政と自治体は密接に関連し、地方自治の劣化は、この関係を切断し、国政は生活感覚とは切り離され、イデオロギー対立に争点が矮小化される。(現状がそうなっている)
地域民主主義の劣化は国政の劣化に連動する。という問題意識から議員のなり手不足について述べられた。
事例報告では、
〇辻氏から、「なり手不足」を育てる。地方議会未来への種まき研究会～地方議会養成講座～の報告がされた。
〇たぞえ氏からは、一般社団法人 WOMAN　SHIFT を「届けづらい女性の声を政治につなぎ、1 ずつ実現していく」というミッションで立ち上げた経緯の報告がされた。
〇永野氏からは、枕崎市議会における議員のなり手不足問題の取組として、無投票選挙の克服を目指した 4 年間の歩みの報告がされた。

［所　管］
　コロナ禍で 3 年ぶりの開催は、全国から 2399 人の参加があった。私自身この研修会に初参加でした。片山氏の基調講演は、議会の基本的なあり方を分かりやすく丁寧に説明され、改めて自らの至らなかってことや、これから議会活動で実践しなければならないことなど学ばされた。

パネルディスカッションによる、貴重な報告や意見は「地方自治は民主主義の学校」としてしっかり機能させ、議会の信頼を取り戻す議員の議会内外の取組も問われています。
議員のなり手不足など、地方議会の劣化が、今日の国政が国民の生活感の欠乏した政策が進められる事態になっているし、保身政治に繋がり政治不信や政治の劣化に繋がっているという事です。
住民の生活を豊かに幸せにするために政治はあるという事を肝に銘じて、議会活動することが求められていると改めて認識させられた。